第　２　章

浦添ふ頭地区に関する検討・調整内容

○ 浦添ふ頭地区に関する検討・調整内容

【浦添ふ頭地区における民港の形状案】（令和3年3月31日公表）

●人と自然が共生する港湾環境の形成のため、自然的環境を保全する空間を配置

●那覇空港との連携も活かし、アジアの中継拠点港としての物流空間を形成。
●浦添ふ頭・新港ふ頭の一体的利用のため、両地区をつなぐ臨港道路を考慮。
●臨空・臨港型の産業等の導入を図るため、必要な物流用地を確保。
●交流・賑わい空間の理念も踏まえ、物流空間を南側及び沖側へ配置。

●海とイノーを活かした親水空間、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点を創出。
●牧港補給地区跡地からの景観も含め、海に沈む夕日を最大限に享受。
●牧港補給地区跡地との連続性・一体感を持つよう、将来的な連結部分も考慮。
●アジア地域の富裕層獲得のため、ラグジュアリーホテル等を整備するための用地を確保。

※図中の赤線は、現行の港湾計画を示す。

○ 浦添ふ頭地区に関する検討・調整内容

【浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方】（令和3年3月31日公表）

●浦添ふ頭と新港ふ頭の国内外海上輸送網及び流通加工等の物流施設の一体的利用とともに、那覇空港とのシーアンドエアも活かし、アジアへの多様な速度帯による重層的な航路サービスを全国・アジアの荷主に提供する、アジアの中継拠点港としての物流空間を創出する。

●地域振興のための産業拠点として、浦添ふ頭と新港ふ頭の物流空間の一体的利用や中城湾港との連携により臨空・臨港型の産業等の導入を図る。

●富裕層の長期滞在型観光の拠点となる世界水準の観光リゾート地を形成するため、浦添の自然環境を活かすとともに、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点を含む交流空間を創出する。

●空間配置に関し、交流・賑わい空間は、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点の形成、都市軸との連続性、交流・賑わい空間からの景観を考慮する。
また、交流・賑わい空間と物流空間の間を繋ぎ、多様な機能の調和により新たな価値を創造する空間を配置する。
物流空間は、それらの空間の配置に対応しつつ新港ふ頭との一体的利用による効率的な物流体系の構築を考慮し配置する。

●県全体・背後地域における将来の産業戦略、中城湾港との機能分担、那覇港における課題及び需要や、両空間を繋ぐ空間の利用形態等の検討を踏まえ、物流及び交流・賑わい空間の規模及び配置を検討する。

●人と自然が共生する良好な港湾環境の形成を図るため、自然的環境を保全する空間を配置する。

○ 浦添ふ頭地区に関する県民アンケートについて

1. 県民アンケート調査について

（1）. 調査の目的

本調査は、令和3年3月31日に公表した「浦添ふ頭地区における民港の形状案」について、県民の意見を聴取し、今後予定する長期構想や港湾計画改訂に向けた参考とするために実施した。

（2）. 調査対象

沖縄県在住の15歳以上の方を対象とした。

（3）. 調査方法

以下の2通りの方法で実施した。

①モニター調査（モニター登録者へのWEB配信調査）

②オープン調査（当組合HP掲載によるオープン調査）

（4）. 調査期間

令和3年6月12日（土）9時から27日（日）17時まで

（5）. 質問内容（問1～問6：選択形式、問7：自由記述）

問1　あなたの居住地を教えてください。

問2　あなたの年齢を教えてください。

問3　あなたの性別を教えてください。

問4　沖縄の歴史と港は密接に関係し、時代の要請に対応して港のあり方・規模も変化してきました。このことをご存じでしたか。

問5　物流・貿易の拠点として那覇港の機能を強化することの重要性について、認識を深めることができましたか。

問6　交流・賑わいの拠点として那覇港の機能を強化することの重要性について、認識を深めることができましたか。

問7　浦添ふ頭地区の民港の形状案について、ご意見がありましたらお聞かせください。

○ 浦添ふ頭地区に関する県民アンケートについて

2. 県民アンケート調査結果（総評）について

●令和3年6月12～27日に、15歳以上の県民を対象として、無記名でのモニターとｵｰﾌﾟﾝの2種類の方法で、自由記述形式により実施した。
●回答数は、3､026件であった。
●今回の調査目的は、統計的な分析を行って数値の大小による判断を行うものではなく、長期構想や港湾計画等におけるハード･ソフトの取組の検討の参考とするためのもの。
●浦添ふ頭地区の民港形状案に対して地域振興を期待する意見や開発内容に関する意見、環境保全への配慮、他港での対応を求める意見等、幅広い意見を頂いた。

3－1. 属性及び調査結果について

（1）. 属性について

問1　居住地については、那覇市が30.4%で最も高く、次いで中部地区が27.4%、南部地区が17.5%となっている。（図-1）

問2　年齢については、40代が22.6%で最も高く、次いで50代が22.1%、30代が20.6%となっている。（図-2）

問3　性別については、男性が50.6%、女性が47.6%、不明が1.8%である。（図-3）

回答者居住地

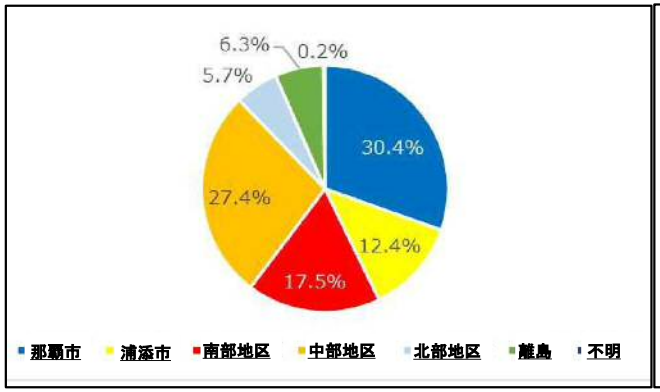


図-1

年代別回答者

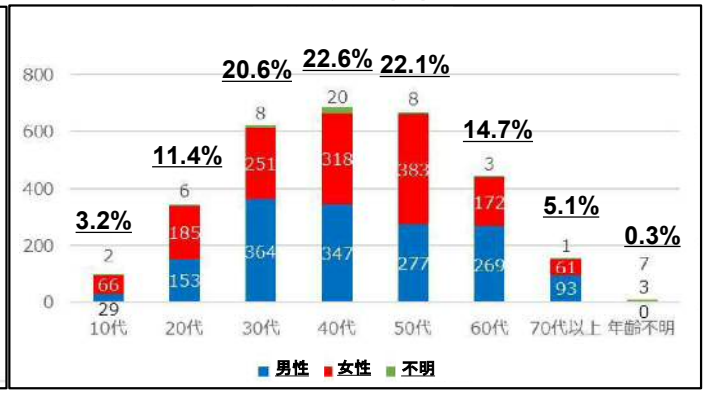


図-2

回答者男女比

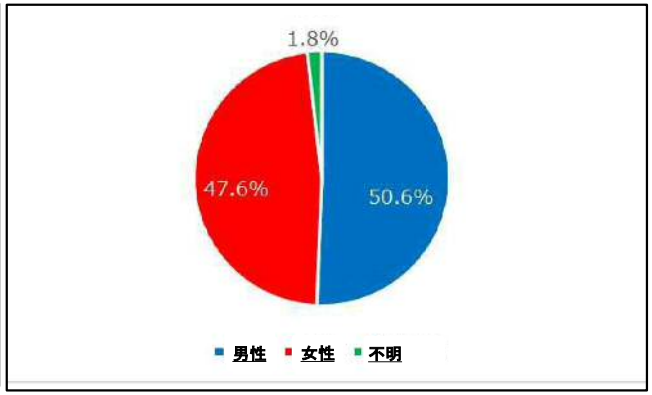


図-3

○ 浦添ふ頭地区に関する県民アンケートについて

３－２. 属性及び調査結果について

（2）. 調査結果について

問4　沖縄の歴史と港は密接に関係し、時代の要請に対応して港のあり方・規模も変化してきたことへの認知度について

沖縄の歴史と港の関係についての認知度は、「知っていた（やや知っていた）」の割合は49.0%で、「知らなかった（あまり知らなかった）」が39.4%、「どちらとも言えない」が11.3%であり、未回答が0.3%であった。（図−4）

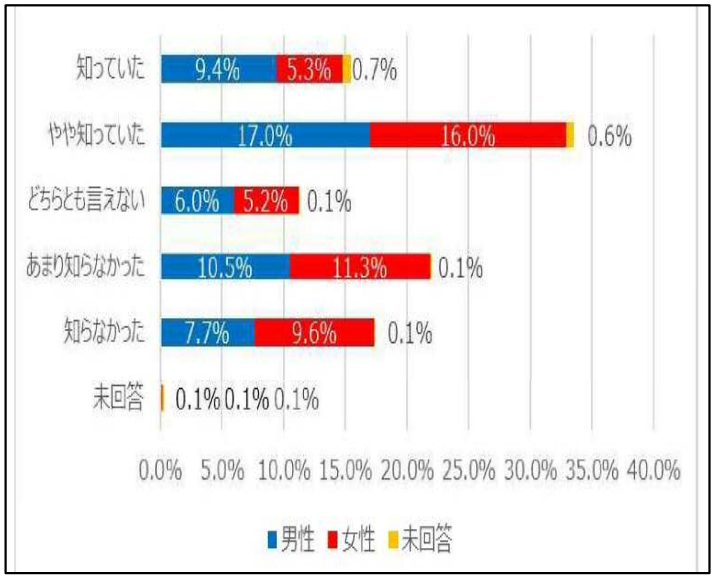
問5　物流・貿易の拠点として那覇港の機能を強化することの重要性について、認識を深めることができたかについて

物流・貿易の拠点としての機能強化の重要性について、「認識を深めることができた（やや認識できた）」の割合69.6%で、「認識できない（あまり認識できない）」が12.5%、「どちらとも言えない」が17.5%であり、未回答が0.4%であった。（図−5）

問6　交流・賑わいの拠点として那覇港の機能を強化することの重要性について、認識を深めることができたかについて

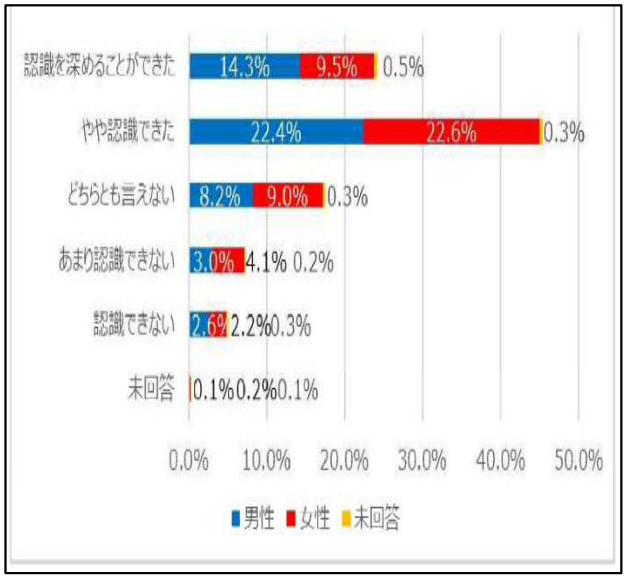
交流・賑わいの拠点としての機能強化の重要性について、「認識を深めることができた（やや認識できた）」の割合は70.4%で、「認識できない（あまり認識できない）」が12.4%、「どちらとも言えない」が16.9%であり、未回答が0.4%であった。（図−6）

沖縄の歴史と港の関係



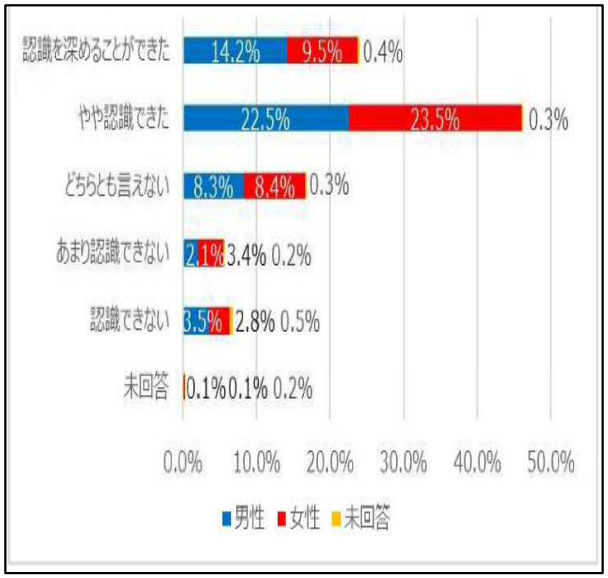
図−4

物流・貿易の拠点としての機能強化の重要性



図−5

交流・賑わいの拠点としての機能強化の重要性



図−6

○ 浦添ふ頭地区に関する県民アンケートについて

３－３. 属性及び調査結果について（問7関連）

地域振興を期待する意見	キンザー跡地前面を交流・賑わい空間にする等の観光・景観への配慮や、自然環境への配慮された形状である点を評価するもの
	現状の港湾混雑の解消に向けて期待するもの
	沖縄県、地元・浦添市のコロナ収束後の物流・観光への対応や将来の発展を支えるために重要とするもの
	県民の憩いの場になることを期待するもの
	アジアの中継拠点港としての発展に期待するもの
開発内容に関する意見	物流空間のみ整備して交流・賑わい空間は自然海岸とすべき、物流空間の部分もクルーズ船ふ頭にして全て交流・賑わい空間にすべきとするもの
	マリンレジャーやバーベキュー、スポーツ施設、公園等、交流・賑わい空間に係る施設構成に関するもの（個別施設について必要／不必要の両方）
	モノレールの延伸や駐車場の確保等、交通アクセスの強化に関するもの
	交流・賑わい空間からの視界にできるだけ物流空間が入らない等の景観への配慮に関するもの
	沿岸の道路の立体化やキンザー跡地からのアクセス道路整備等、キンザー跡地との一体的利用に関するもの
環境保全への配慮、他港での対応を求める意見	現在の海岸への愛着や生態系の状況等を踏まえ、埋立全般に反対、現状のままが良いとするもの
	自然環境への影響の懸念や不安等、自然環境保全に関するもの
	新港ふ頭等の拡張や効率的利用、中城湾港等の他港の利用で対応すべき（対応できるのではないか）等、既存施設での対応を求めるもの
	新港ふ頭等で未開発用地が残っている中で、浦添ふ頭への展開は時期尚早ではないかというもの
	観光偏重の将来戦略は不適切であるとするもの
その他	「特になし」、「意見なし」、「わからない」
	趣旨不明の回答、民港形状案に関係のない回答　等

○ 浦添ふ頭地区に関する県民アンケートについて

4. アンケート結果に対する那覇港管理組合の考え

①「沖縄の歴史とみなとの関係」に関する認知度は、「知っていた（やや知っていた）」の割合は約49%となっており、那覇港の歴史文化を活かした”みなとまちづくり”を推進する上では、引き続き理解を深めてもらうための広報等の強化が必要であると考える。

②また、「物流・貿易の拠点としての機能強化の重要性」や「交流・賑わいの拠点としての機能強化の重要性」に関する認知度については、「認識を深めることができた（やや認識できた）」の割合は、ともに約70%となっていることから、那覇港が担っている役割や機能について、理解が深まったと考えている。引き続き広報等の継続が必要であると考えている。

③さらに自由意見では、那覇港が担う物流や交流等の地域振興に期待する意見や市民からの西海岸への愛着に関する意見等を確認することができた。

④浦添ふ頭地区の民港形状案は、中城湾港との機能分担も考慮して那覇港の将来の取扱貨物量を推計し、それに対応するために必要な物流施設の配置について、新港ふ頭地区の拡張を最大限図った上で、浦添ふ頭地区に展開するという流れで検討を行った。

⑤那覇港管理組合としては、将来に渡り、県産業の持続的な成長を図るためには、県最大の物流拠点港湾である那覇港において、浦添ふ頭地区への展開を含め、産業活動に伴う物資輸送の増加に対応できる物流施設の拡充、自立型経済の構築に向けた臨空・臨港型産業の導入に必要な用地確保が必要と考える。また、観光の高付加価値化等に向けて、富裕層の獲得等に資する交流・賑わい空間の形成等を図るためには、マリーナ等の整備と合わせて埋立による用地造成が必要と考える。

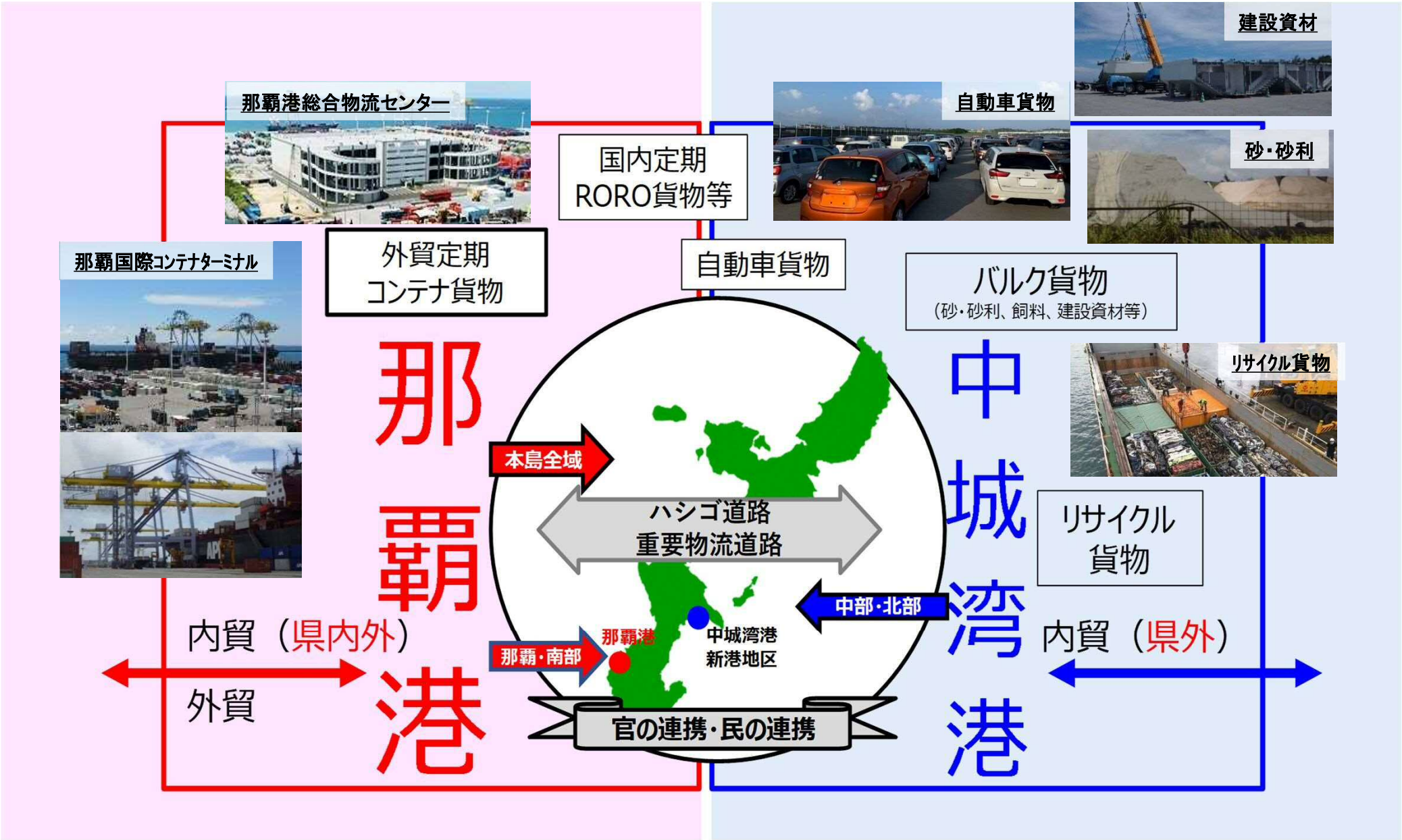
⑥これらの観点から、那覇港浦添ふ頭地区における物流空間と交流・賑わい空間は、物流・交流・商流の相乗効果の発揮等のためにそれぞれ必要な機能であると考える。今後、浦添展開の必要性についてわかりやすい説明の工夫をしていく。

⑦なお、港湾計画に基づき事業化を図るに当たっては、需要の顕在化の状況を精査し、費用対効果分析等を行った上で、実施することとなる。物流空間については、まずは新港ふ頭地区を中心とした施設整備や既存施設の効率的利用、中城湾港との機能分担等を進める中で判断することとなる。

⑧自然環境への影響については、今後、港湾計画改訂に向けた作業の中で、那覇港全体の環境現況調査を実施する予定、その後、環境への影響の分析を行い、自然環境に配慮した港湾計画の策定を行う予定。

⑨開発内容に関する意見については、今後、関係企業や民間企業の意見等も踏まえつつ、詳細な施設規模・配置等の検討を行っていく中で、参考としていきたい。

○那覇港と中城湾港の機能分担



○【参考】沖縄県の産業基盤・制度（工業用水・工場適地・国際物流産業集積地域）

- 製造業や電気業等に必要となる工業用水は、中城湾・金武湾沿岸等に配水管が敷設され、給水区域は東海岸が中心となっている。
- 工場立地法に基づく工場適地※も東海岸が中心となっている。

※　工場適地：工場立地法に基づく工場適地調査の結果、工場立地にふさわしい土地として、工場立地調査簿に記載された工業用地。

出典：第1回中城湾港長期構想委員会資料より

第　３　章

那覇港長期構想の構成（案）

○ 那覇港長期構想の基本理念、目指す将来像、基本戦略（案）

【那覇港長期構想の基本理念】

舟楫（しゅうしゅう）をもって万国の津梁となす、世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”

【那覇港の目指す将来像】

＜物流・産業＞
Ⅰ　アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際物流拠点となる“みなと”

＜交流・賑わい＞
Ⅱ　世界から選ばれ、観光の高付加価値化に導く“みなと”

＜安全・安心＞
Ⅲ　沖縄の経済・生活の強靭化を支える“みなと”

＜持続可能な開発＞
Ⅳ　持続可能な発展を実現する“みなと”

【将来像実現に向けた基本戦略】
― 那覇港7つのチャレンジ ―

戦略1　流通加工機能等や空港との連携を活かした『アジアの中継拠点港』化による航路網の充実

戦略2　空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨

戦略3　多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成

戦略4　万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成

戦略5　平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保

戦略6　経済活動と豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出

戦略7　人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用

○ 那覇港長期構想の基本理念、目指す将来像、基本戦略（案）

■ 将来像の実現に向けて取り組む基本戦略

将来像Ⅰ ＜物流・産業＞ アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際物流拠点となる”みなと”		
基本戦略 1	流通加工機能等や空港との連携を活かした『アジアの中継拠点港』化による航路網の充実	8 9 11 13 17
基本戦略 2	空港との連携や物流･交流･商流の相乗効果による臨空･臨港型産業の集積及び創貨	8 9 11 13 17

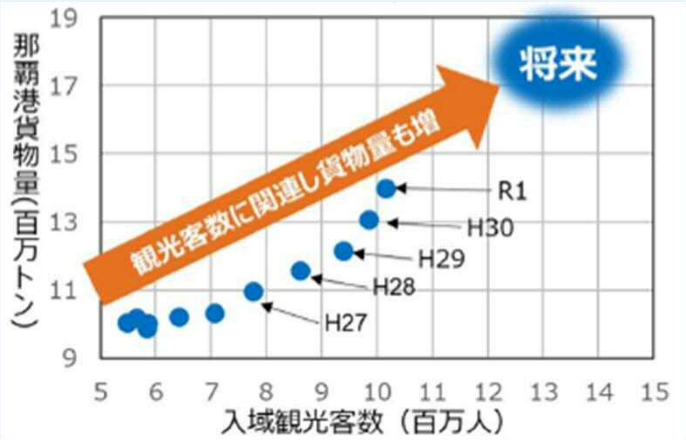
将来像Ⅱ ＜交流・賑わい＞ 世界から選ばれ、観光の高付加価値化に導く”みなと”		
基本戦略 3	多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成	8 9 11 17
基本戦略 4	万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成	8 9 11 14 17

将来像Ⅲ ＜安全・安心＞ 沖縄の経済・生活の強靭化を支える”みなと”		
基本戦略 5	平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保	8 9 10 11 13 15 17

将来像Ⅳ ＜持続可能な開発＞ 持続可能な発展を実現する”みなと”		
基本戦略 6	経済活動と豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出	3 6 11 12 14 17
基本戦略 7	人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用	3 6 7 8 9 11 12 13 17

○ 港湾空間の規模の考え方(物流空間)

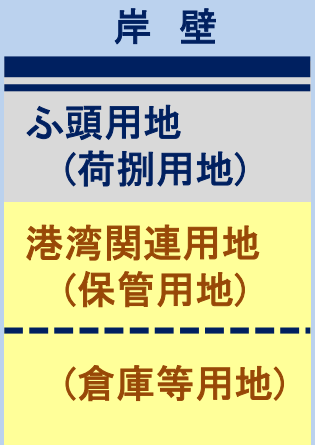
①将来の取扱貨物量



●近年、来沖観光客数の増加により、県内の物流量も大幅に増加。今後も、観光振興による観光客数・滞在日数・消費額の増加に伴い物流量は増加すると考える。
●来沖観光客数と相関が強いと考えられる貨物品目(レンタカー等の「完成自動車」、小口貨物を混載する「取合せ品」、「製造食品」、「家具装備品」、「その他日用品」等)について、将来の観光客数等の推計値を基にした回帰分析等により、現状の趨勢に沿った取扱貨物量の需要推計を行う。(精査中)
●また、戦略的に集荷を目指すアジアとの中継貨物量等の目標値について検討中。
●以上を合わせて、那覇港の将来の取扱貨物量として想定する。

②将来の取扱貨物量への対応に必要な物流空間の規模(新港ふ頭・浦添ふ頭)

●将来の取扱貨物量に対応するために必要な岸壁数を推計し、岸壁背後に必要な用地面積を確保する。
●岸壁背後に必要な用地としては、ふ頭用地(船舶との積降し作業を行う荷捌用地)と港湾関連用地(港湾関係企業ごとに搬出入待ち貨物の蔵置等のため確保する保管用地(野積場)、倉庫等用地)がある。
●1隻当たりの積降し貨物量(積載容量)に対して不足が生じないふ頭用地の面積や、将来的な岸壁延長に対して必要と考えられる港湾関連用地の面積に関する他港の事例等を踏まえて、新港ふ頭と浦添ふ頭において将来必要な物流用地面積を推計する。
●また、自立型経済の構築に向けた臨空・臨港型産業の導入を戦略的に図るため、新港ふ頭と浦添ふ頭の両方に、那覇港総合物流センターⅠ～Ⅲ期分と同程度の面積を別途確保する。



○ 港湾空間の規模の考え方(クルーズ船用岸壁)

- クルーズ船用岸壁については、平成28年度以降、本部港の「官民連携による国際クルーズ拠点を形成する港湾」への選定や、中城湾港におけるクルーズ専用岸壁の計画検討等、沖縄本島のクルーズ船用岸壁の配置に関わる状況変化が生じている。
- 現在、新型コロナウイルスの影響によりクルーズ船寄港は止まっているが、令和3年当初の年間寄港予約数が309回であったこと等、那覇港に対するクルーズ船社の関心は依然として高い。
- 那覇港としては、本部港と中城湾港との機能分担を図った上で、当面は那覇クルーズターミナル(若狭)及び第2クルーズバース(新港ふ頭)での受入により対応しつつ、中長期的には浦添ふ頭を含めた3バース体制の構築を図る。
  ※沖縄県全体のクルーズ需要の分析について沖縄県等の関係機関と連携して精査中である。

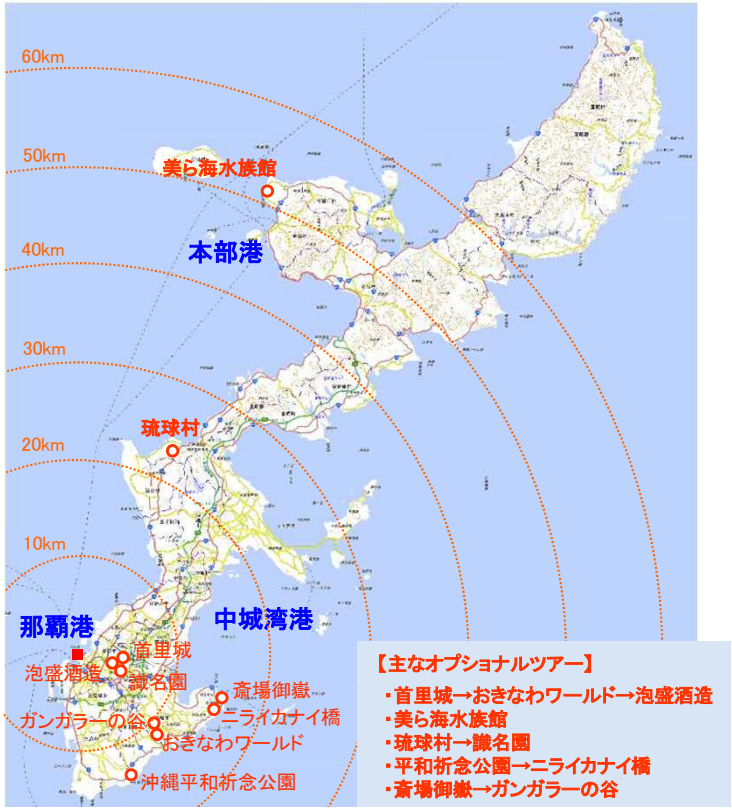
■ 沖縄本島内の将来のクルーズ船の受入体制の想定

○ 当面は、沖縄本島内で4バースで対応する。
○ 中長期(概ね15～30年後)では、新たな定期・定点クルーズ等の対応のため、沖縄本島内で5バースを整備目標とする。

	那覇港			本部港	中城湾港
	那覇クルーズターミナル【既設】	新港ふ頭【整備中】	浦添ふ頭【今回計画】	【整備中】	新港地区【予定】
現　在	○	△	－	－	△
当　面	○	○	－	○	△
中　長　期	○	○	○	○	○

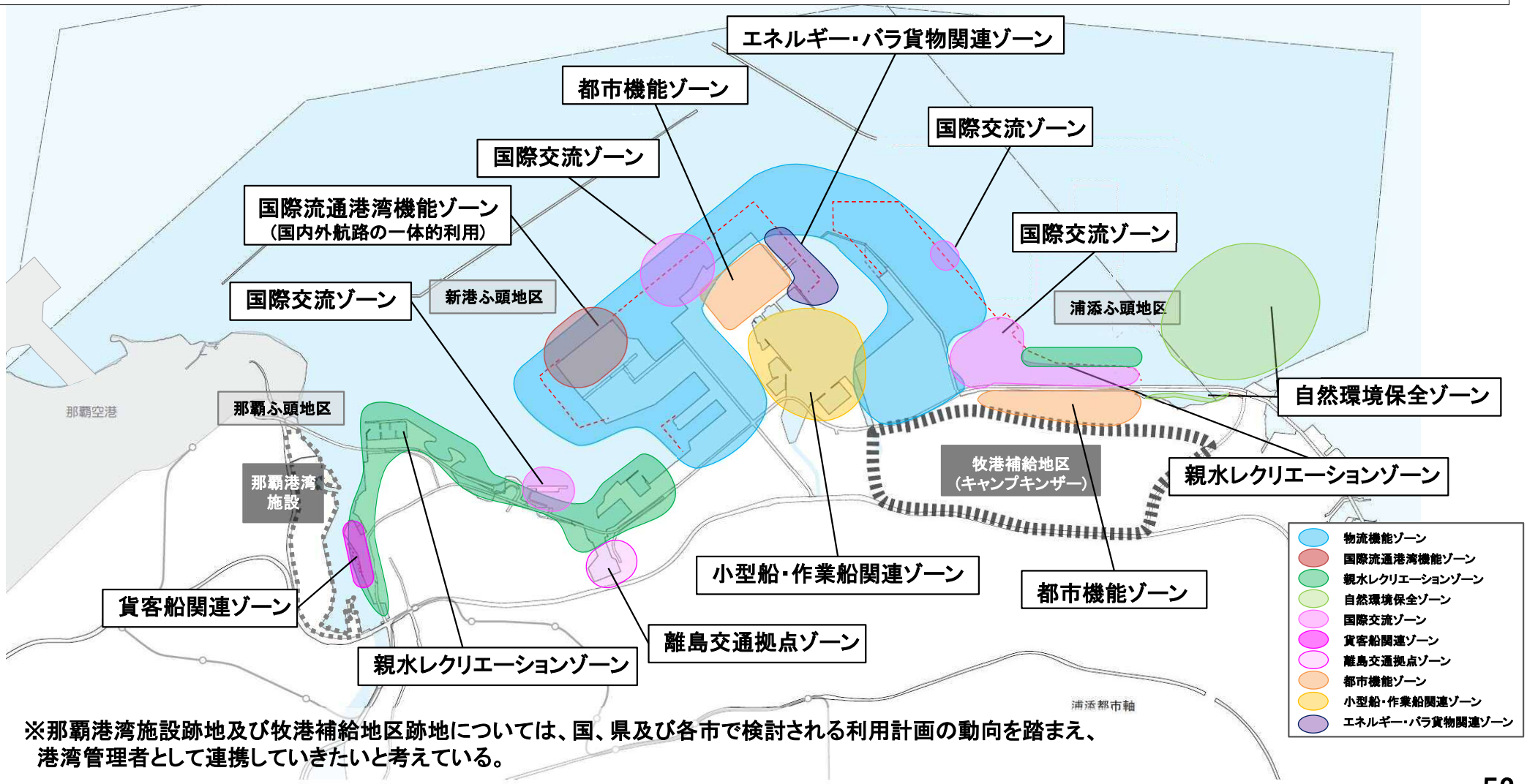
△：貨物岸壁の利用

■ クルーズ船のオプショナルツアー



○ 港湾空間利用計画(ゾーニング)（案）

- 物流機能の中心は、引き続き新港ふ頭と浦添ふ頭として、2つの ふ頭の一体的利用を図る。
- 物流機能のうち燃料等の危険物を扱うゾーンは新港ふ頭の北側に配置。
- 離島航路の拠点は引き続き泊ふ頭とし、那覇ふ頭は貨客船ゾーンとする。
- クルーズ船やスーパーヨット等の受入に対応する国際交流ゾーンは、泊ふ頭＋新港ふ頭＋浦添ふ頭で展開。
- 親水レクリエーションゾーンを、那覇ふ頭から新港ふ頭の入り口部分までの連続的な水際線に加え、浦添ふ頭に南北に長く配置。
- 浦添ふ頭北側に、自然環境保全ゾーンを配置。



※那覇港湾施設跡地及び牧港補給地区跡地については、国、県及び各市で検討される利用計画の動向を踏まえ、港湾管理者として連携していきたいと考えている。

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅰ ＜物流・産業＞(案)

将来像Ⅰ＜物流・産業＞
アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際流通拠点となる“みなと”

基本戦略	主要施策	取組内容の例
戦略1 流通加工機能等や空港との連携を活かした『アジアの中継拠点港』化による航路網の充実	●国内外海上輸送網及び流通加工等の保管施設の一体的利用や、那覇空港との機能連結によるシーアンドエアー等、多様な輸送サービスの構築	■高規格・高能率コンテナターミナルの整備及び複合ターミナル化 ■国内外RORO船ターミナル・在来船ターミナルの強化拡充 ■那覇港総合物流センターの拡充 ■一時保管（仮置きヤード）や、流通加工、配送機能（物流施設）等に係る保管施設用地の拡充（シャーシの立体蔵置や上屋の屋上利用含む）
	●物流効率化や物流コスト低減等による航路拡充の促進	■船舶への陸電供給や荷役機械等のFC化等、環境に配慮した利便性の高い利用環境の構築 ■国内・アジアの主要港と連携したネットワーク強化による荷主の呼び込み ■AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靱化を図る「沖縄型スマートポート」の形成 ■トランスファークレーンの導入等による港湾機能の高度化
	●港湾・空港へのアクセス強化	■新港ふ頭と浦添ふ頭の物流空間の一体的利用のためのふ頭間臨港道路の整備 ■那覇港と背後圏、那覇空港を円滑に繋ぐ陸上輸送網の整備 ■那覇空港との連携強化のための港内海上輸送ネットワークの検討 ■中城湾港との連携を強化するための両港間の陸上・海上輸送ネットワークの形成
戦略2 空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨	●流通加工等の付加価値の高い臨空・臨港型産業の集積促進	■那覇港総合物流センターの拡充をはじめとする、流通加工やコールドチェーンに対応した物流施設等の臨空・臨港型産業の集積促進に必要な用地の確保 ■空港と港湾が連携したEコマース等の新たな物流ニーズも踏まえた企業誘致 ■国内外航路の接続や保税状態での流通加工・輸移出等を効率的に行うための、外内貿ふ頭と背後の物流施設等の円滑な接続が可能となる施設配置
	●県内事業者の海外展開や輸出拡大を支える物流環境の整備等	■県産の農水産品輸出拡大のため、ふ頭用地におけるリーファー電源の拡充 ■県産品の海上小口混載輸送による輸出促進 ■生産拠点の形成を図る中城湾港との機能分担・有機的連携による創貨・集荷促進 ■クルーズ船寄港に合わせた船内飲食への県産品提供、クルーズターミナルや港湾緑地等における農水産品や工芸品等の県産品等の販売・宅配・データ収集を行うイベントの実施 ■ビジネス交流拠点の形成に向けて、県産品の販路拡大や全国特産品の流通拠点化のプラットフォーム構築を目指す商談機会の創出における海上輸送に関する協力・連携 ■県外・国外出荷のノウハウが不足する個別事業者に対する物流専門家による支援、国際物流拠点の形成に向けた人材の確保・育成における海上輸送に関する協力・連携

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅰ ＜物流・産業＞(案)

【将来像Ⅰ】 アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際流通拠点となる“みなと”

★ 戦略1　流通加工機能等や空港との連携を活かした『アジアの中継拠点港』化による航路網の充実
★ 戦略2　空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨

●国内外海上輸送網や那覇港物流センター等の一体的利用、那覇空港とのシーアンドエアー等、多様な輸送サービスの構築

那覇空港と連携強化のための港内海上輸送ネットワークの検討

出典：横浜市HP

●コンテナ・RORO・在来船ふ頭の強化・再編

※あくまでイメージであり、配置規模は調整中である

航空写真：Satellite Image c2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxer company.沖縄総合事務局提供

トランスファークレーン等による港湾機能の高度化

出典：博多港ふ頭(株)HPより

リーファー電源の増設

写真：那覇港国際コンテナターミナル内

物流空間の一体的利用のためのふ頭間臨港道路の整備（橋梁等）

新港ふ頭地区

浦添ふ頭地区

那覇空港貨物ターミナル(株)

那覇ふ頭地区

牧港補給地区（キャンプキンザー）

那覇港湾施設

●那覇港総合物流センターの拡充等、流通加工等の物流産業の集積

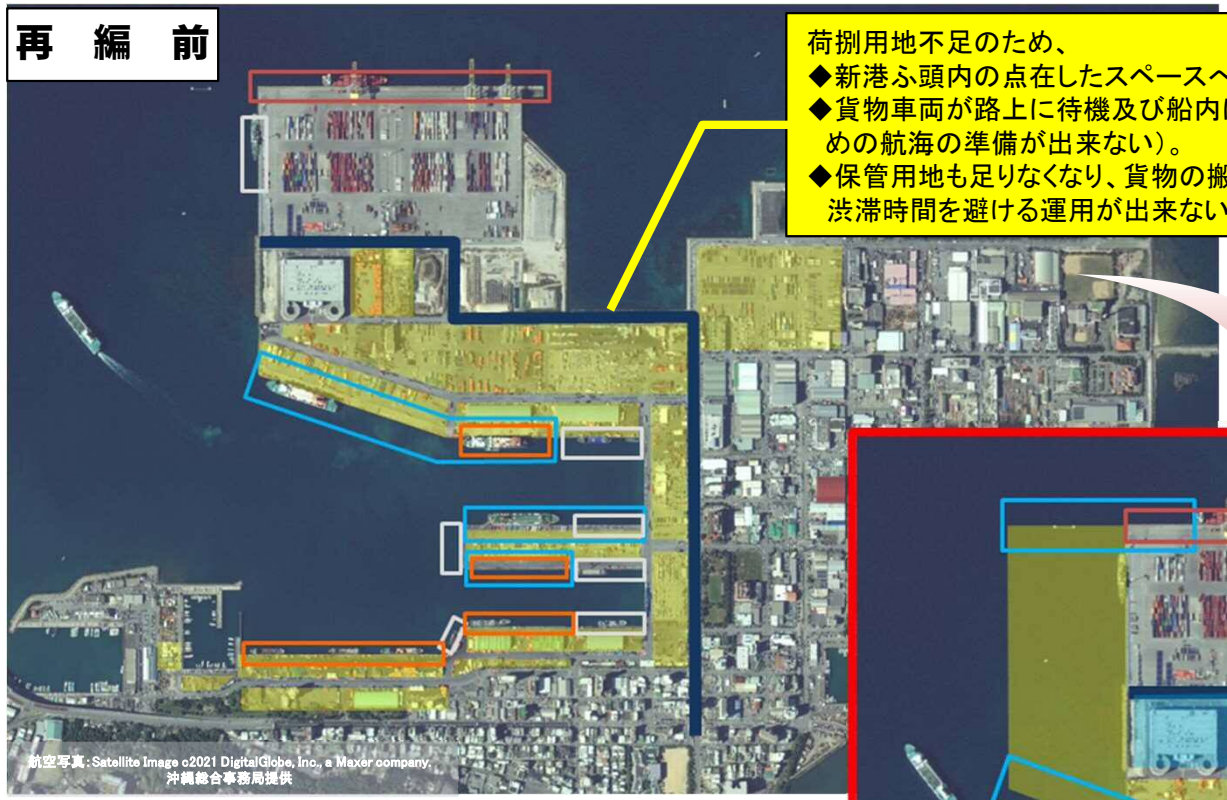
出典：(株)那覇港総合物流センターHPより

●那覇港と背後圏、那覇空港を円滑に繋ぐ陸上輸送網の整備

若狭港町線の完成予想図　　出典：那覇港湾・空港整備事務所HPより

航空写真：Satellite Image c2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxer company.沖縄総合事務局提供

○【参考】 新港ふ頭RORO船・一般貨物船ターミナルの再編イメージ



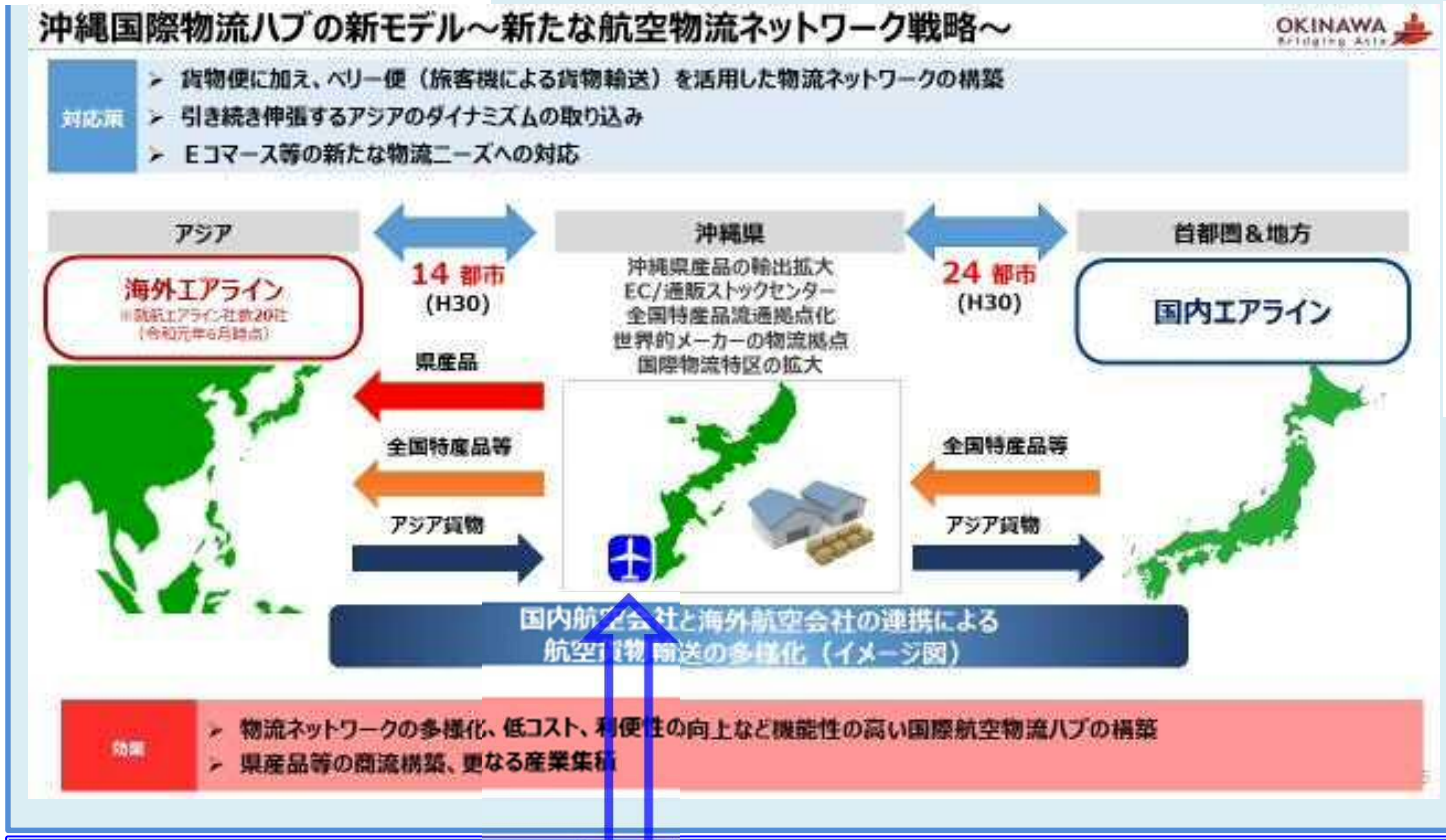
荷捌用地不足のため、
◆新港ふ頭内の点在したスペースへの非効率な横持ち輸送が生じている。
◆貨物車両が路上に待機及び船内に貨物を長時間存置している（出港のための航海の準備が出来ない）。
◆保管用地も足りなくなり、貨物の搬出時間を計画的に行えず、周辺道路の渋滞時間を避ける運用が出来ない。

※あくまでイメージであり、配置・規模は調整中

- ：RORO船の利用
- ：一般貨物船の利用
- ：海保巡視船・タグボート等の貨物積卸しのない船の利用
- ：荷捌用地及び保管用地（野積場）
- ：臨港道路

○【参考】 多様な輸送サービスの構築（アジアの中継拠点港）のイメージ

【那覇空港の物流戦略】



■ 鹿児島県「SHIP&AIR」での活用事例

鹿児島県では、鹿児島県産品の輸出拡大に向けた取組として、沖縄国際物流ハブを活用した海上輸送と航空輸送による新たな輸送スキームを、平成29年12月に構築しました。

鹿児島県から沖縄県への輸送距離が短いという地理的優位性を活かした海上輸送ネットワークと那覇空港を基点としたアジア圏への航空輸送ネットワークを組み合わせることにより、リードタイムの短縮や輸送コストの削減を図り、スピーディーかつリーズナブルな輸送体系を実現しています。

この新たな輸送スキームの活用により、畜産物、水産物、農産物等の鹿児島県産品の輸出拡大に取り組んでいます。

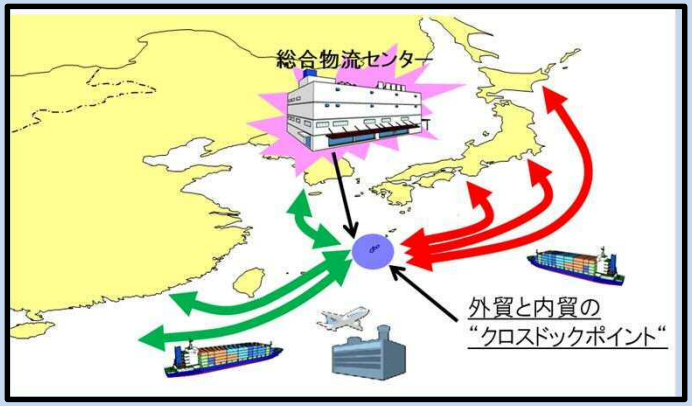
○「SHIP&AIR」輸送イメージ

出典：沖縄国際物流ハブ/県商工労働部

【那覇港】

●国内外との海上輸送網
●保管・流通加工等を行う物流施設
●港湾旅客による消費活動

国内港 ⇔ ⇔ 海外港



○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅱ ＜交流・賑わい＞（案）

将来像Ⅱ＜交流・賑わい＞　世界から選ばれ、観光の高付加価値化に導く“みなと”

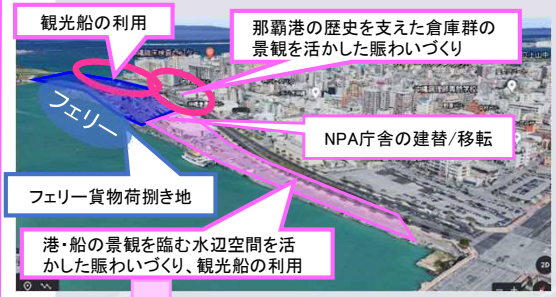
基本戦略	主要施策	取組内容の例
戦略3 多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成	●国際クルーズ拠点の形成	■クルーズ船の大型化への対応、複数のクルーズ船専用岸壁の確保 ■クルーズ船の拠点港化に向けたポートセールス ■官民連携によるクルーズターミナルの整備 ■クルーズターミナル及び周辺の利便性・快適性向上 ■クルーズターミナルにおける離島や県内各地の魅力の発信 ■クルーズ船寄港に合わせた船内飲食への県産品提供、クルーズターミナルや港湾緑地等における農水産品や工芸品等の県産品等の販売・宅配・データ収集を行うイベントの実施（再掲）
	●観光の高付加価値化に資するフライアンドクルーズの誘致やスーパーヨット等の受入環境の整備	■フライアンドクルーズの誘致に向けたポートセールスや、沖縄県全体のクルーズ寄港の増大に向けた管理者間連携を進めていく ■那覇クルーズターミナル（若狭）と宿泊施設が立地する背後市街地へのプロムナードの快適性向上 ■那覇空港や那覇クルーズターミナル（若狭）と併設した周辺離島等への旅客船バースの整備検討 ■スーパーヨット等に対応したマリーナの整備 ■マリーナ及び周辺の利便性・快適性向上 ■クラブハウス等における離島や県内各地の魅力の発信
	●観光二次交通の利便性向上	■都市部と第2クルーズバースを繋ぐ周辺道路に関するハード・ソフト両面の渋滞対策の検討 ■観光拠点と港湾・空港を自動運行する新たなモビリティの活用への対応やICT技術を活用したシームレスな乗り継ぎ環境確保、レンタカー貸渡拠点の確保等の推進 ■第2クルーズバース旅客に対するバース周辺施設（卸売市場等）への滞在促進 ■シェアサイクル等の多様な移動手段の利用促進による渋滞緩和 ■公共交通網の拡充に関する関係機関との検討
戦略4 万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成	●基地跡地開発や周辺離島との連携等を活かした多彩で高品質な交流・賑わい空間の整備	■浦添ふ頭地区における、浦添の自然環境を活かすとともに、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ ビジネス拠点の形成（スーパーヨット等に対応したマリーナ、ビーチ等、ラグジュアリーホテル等用地） ■那覇港管理組合庁舎の建替移転の検討や那覇港湾施設跡地計画の動向も踏まえた、那覇ふ頭地区の再開発の検討 ■泊ふ頭からの危険物取扱移転に合わせた、離島の魅力発信を含む交流・賑わい空間への再開発
	●地域の歴史・文化等を活かしたウォーターフロント空間の創出や周遊性向上等による、地域のブランド価値向上と県民・観光客の満足度向上・再来訪促進	■「みなとまちづくりマスタープラン」の推進 ■三重城小型船溜まり周辺の臨港道路用地等の活用による賑わい創出 ■新港ふ頭小型船溜まり周辺の再開発 ■散策して楽しいウォーターフロント空間の面的な展開に向けた、周辺地域における那覇市・浦添市の街づくりや民間企業の取組等との連携強化（周辺地域の公園・街路等と連携した良好な景観創出、文化・スポーツ等のイベントとの連携等） ■みなとまちづくりの拠点を繋ぐ水際線のプロムナードの整備 ■水辺空間を繋ぐ港内海上交通ネットワークの検討 ■空路・航路・陸上交通の連続性の確保によるシームレス化に向けた、港内海上交通を活用したICT技術の研究・実装の検討
	●海洋レクリエーション環境の整備	■小型船溜まりや港湾緑地、海浜等におけるアメニティ機能の強化、親水性の向上 ■民間活力の導入によるサービス水準の向上、導入エリアの拡大の推進 ■安全確保を前提とした釣り開放エリアの指定 ■イノー等における海洋教育の活用

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅱ ＜交流・賑わい＞（案）

【将来像Ⅱ】 世界から選ばれ、観光の高付加価値化に導く“みなと”

★ 戦略3　多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成
★ 戦略4　万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成

●那覇港湾施設跡地計画の動向等と連携した、那覇ふ頭地区の再開発の検討（イメージ：今後詳細検討）



出典：東京都港湾局HPより

●国際クルーズ受入環境の整備

（那覇クルーズターミナル（若狭）：小中型
第2クルーズバース（新港ふ頭）：中大型
浦添ふ頭：小型）

●クルーズターミナル及び周辺の利便性・快適性向上

●浦添の自然環境を活かし、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点の形成（イメージ：今後詳細検討）

●スーパーヨット等に対応したマリーナの整備

イタリア　ポルトフィーノ　の様子

新みなとまちづくり宣言-「新しいみなとまちづくり」-（R1.5 新みなとまちづくり研究会）資料より

●みなとまちづくりの拠点を繋ぐ水際線のプロムナードの整備
●水辺空間を繋ぐ港内海上交通ネットワークの検討

●海洋レクリエーション環境の整備、サービス向上

県産品販売イベント（イメージ）

出典：沖縄県工業連合会HPより

●クルーズ船寄港に合わせた船内飲食への県産品提供、クルーズターミナルや港湾緑地等における農水産品や工芸品等の県産品等の販売・宅配・データ収集を行うイベントの実施

●泊ふ頭からの危険物取扱移転に合わせた再開発（イメージ：今後詳細検討）

●新港ふ頭の小型船溜まり周辺の再開発（イメージ：今後詳細検討）

航空写真：Satellite Image c2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxer company.沖縄総合事務局提供

航空写真：Satellite Image c2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxer company.沖縄総合事務局提供

【参考】フライ＆クルーズの誘致、スーパーヨット等の誘致で期待される効果

●フライ＆クルーズ（クルーズツアーと発着港までの飛行機での移動を組み合わせた旅行形態）は、クルーズ乗船前後に背後地域での宿泊を伴う可能性が高い。

●このため、背後地域での観光消費額の向上が期待される。

●ポートセールスとともに、クルーズ岸壁と宿泊施設が立地する背後市街地を繋ぐプロムナード等の快適性向上に取り組む。

●沖縄圏域各地に、スーパーヨット（外国人富裕層 などが個人所有する全長80フィート以上(24m以上)の大型クルーザー）が寄港しており、浦添ふ頭への寄港の可能性も高い。（船浮港（西表島）、竹富東港（竹富島）、安護の浦港（座間味島）といった小規模離島にも寄港している。）

●特にスーパーヨットは、滞在期間中の消費が多い傾向にあり、背後市街地において高い経済効果が期待される。

●また、船舶メンテナンス等、造船所等における新規需要の獲得も期待される。

【スーパーヨットの経済効果の事例（県外含む）】

来訪年	全長	滞在期間	国内支出実績
2013	113.14m	17日	￥27,500,000
2014	26.26m	10日	￥5,700,000
	40.22m	10日	￥15,230,000
2015	44.94m	10日	¥17,525,000
	54.45m	3日	￥3,428,360
	91.50m	30日	￥45,000,000
2016	27.00m	10日	￥2,500,000
	54.00m	3日	￥12,000,000
	54.00m	22日	￥25,000,000

＜国内での主な支出項目＞
・地元名産品の購入
・ゲストやクルーの食料調達
・旅館、ホテルの宿泊
・観光
・給油
・港湾使用料、水道・電気料
・船、船用品のメンテナンス
・空港、ビジネスジェットの活用

出典：第1回中城湾港長期構想検討委員会資料より

【沖縄県におけるスーパーヨット寄港実績】

那覇港　4隻	中城湾港　12隻
平良港　2隻	石垣港　9隻

出典：沖縄総合事務局とりまとめ
注意：集計期間は2016年～2021年8月まで

出典：第1回中城湾港長期構想検討委員会資料より

【参考】クルーズ船への地元食材の提供事例

●ゲンティン香港傘下のドリームクルーズ社とJAおきなわ及びレオスポ(株)は2018年4月、ワールドドリーム船内で「おきなわ和牛」をはじめとする沖縄食材の販売契約に関する覚書を締結。同年8月にはｽﾀｰｸﾙｰｽﾞ社の3隻にも提供することに合意。
●クルーズ船寄港は観光分野だけでなく県産品の消費拡大や生産者の所得向上等、農林水産分野の振興にも大きく貢献。

■ 主な県産品やイベントの船内イベントの様子

ゴーヤー

■ クルーズ船への販売実績（2018年4月～2019年3月）

食材	数量
おきなわ和牛	9トン
あぐー豚肉	3.2トン
黒糖	160ケース
青果物	7トン
加工品 （飲料・菓子類）	3,000ケース

■農産畜産物の海外向け販売額（クルーズ船内での消費を含む）
（2018年4月～2018年10月末）

食材	販売額
畜産物	4,438万円
加工品	681万円
青果品	401万円
販売額	5,520万円

※上下表：沖縄タイムス、琉球新報にて報道（2018年11月20日）より

出典：「令和3年度　港湾計画基礎コース」研修資料（国土交通省　総合国土技術政策総合研究所）より那覇港管理組合作成
注意：上記資料等はJAおきなわに関するものである。

○【参考】 みなとまちづくりから背後地域への波及効果イメージ（那覇市・浦添市との連携）

（那覇ふ頭地区～泊ふ頭地区）

（浦添ふ頭地区）

⇨：貴重な水際線を有する港湾空間を活かした、港湾を核とした地域の再生・活性化、新たな地域経済循環の促進

○：『那覇港みなとまちづくりマスタープラン』でウォーターフロントに相応しいまちづくりが望まれるとされたエリア
※『那覇港みなとまちづくりマスタープラン』は計画改訂を踏まえて見直し予定

○【参考】みなとまちづくりに係る上位計画①－1

那覇市都市計画マスタープラン （令和2年3月　那覇市）

3. 地域まちづくり方針

(1)那覇新港周辺地域

<地域の将来像>

新港ふ頭の周辺は、国際的な物流機能の形成に向けて、港湾機能を活かした流通関係の産業集積と新たな大型旅客船バース(第2 クルーズバース)を中心とした魅力的なゲート空間の創出を図ります。また、小学校区を中心としたコミュニティづくりにより、一体感のある暮らしのエリアの安全で快適な生活環境の形成を進めます。市の中心部や隣接する那覇新都心地区などの市街地と、緑あふれる天久の台地や魅力的な水辺の空間を有機的に結びながら、活気のあるウォーターフロントのまちづくりを推進します。

暮らしと交流方針図

○【参考】みなとまちづくりに係る上位計画①－2

那覇市都市計画マスタープラン （令和2年3月　那覇市）

3. 地域まちづくり方針

(7) 那覇西地域（※那覇ふ頭～泊ふ頭）

<地域の将来像>

うみそら公園や波の上ビーチ、離島・観光航路や大型旅客船バースなどの特徴的な海辺の空間と機能を活かした、憩いと交流のまちづくりを推進します。海浜部までの快適で魅力的な歩行空間の創出や公共交通の利便性の向上を図り、中心部に隣接する立地条件を活かした多彩な都市機能が集積・充実する都市型リゾート地区の形成を推進します。また、海に親しめる安全安心でゆとりある住宅地の形成を図ります。かつての港町の歴史を今に伝える地域の歴史・文化遺産を活かした、潮騒が聞こえ・歴史が薫るまちづくりを進めます。

暮らしと交流方針図

○【参考】みなとまちづくりに係る上位計画②

第五次浦添市総合計画　（令和3年3月　浦添市）

施策1－4　西海岸地域の開発

〈施策のめざす方向〉

○西海岸地域は、牧港補給地区の跡地利用計画との一体性に配慮しつつ、新規産業の拠点形成及び都市近郊海浜リゾートの形成をめざします。

○沖縄県、那覇市等との連携のもと、那覇港浦添ふ頭地区の機能拡充を進めるなど、人流・物流の活性化をめざします。

基本的な取り組み（今後5年間の主な取り組み）

1-4-1 港湾の整備

1-4-1-①	浦添ふ頭地区の整備を促進します。そのために、防波堤など外郭施設の整備などを促進します。
1-4-1-②	那覇港における国際流通港湾機能の拡充を促進します。 そのために、港湾施設や物流機能の拡充等、港湾サービスの向上の促進や物流機能の効率化、物流コストの低減化に取り組みます。
1-4-1-③	那覇港の物流機能の円滑化、国道58号の慢性的な交通渋滞の緩和を図ります。そのために、沖縄西海岸道路浦添北道路Ⅱ期線の早期延伸を促進します。

1-4-2 新規産業拠点の形成

1-4-2-①	西海岸地区における新たな産業拠点の形成等に際しては、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した開発を目指します。
1-4-2-②	西海岸地区に新たな産業拠点の形成を図ります。そのために、那覇港管理組合との連携による港湾計画の改訂及び浦添ふ頭地区への企業誘致に取り組みます。
1-4-2-③	新たな企業等の立地促進を図ります。 そのために、国や県と協力しながら、税制上の優遇措置等の拡充に努めます。

1-4-3 都市近郊型海浜リゾートの形成

1-4-3-①	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区については、世界水準の観光リゾート地の形成を図ります。そのために、環境アセスメント業務を進めるとともに、マリーナやビーチなどの整備により交流拠点機能の導入に取り組みます。

1-4-4 港湾環境の保全と創出

1-4-4-①	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区北側の「自然的環境を保全する区域」については、保全・活用を図り、人と自然が共生する海域環境の形成に努めます。
1-4-4-②	海浜等の利活用に努めます。 そのために、「海域環境保全マニュアル（那覇港管理組合策定）」を基本方針に地域住民やNPO団体等と連携・協力します。

那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区

那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区は、少子高齢化や人口の減少が続く中においても、雇用の創出や県民所得の向上を図り、日本及び沖縄の経済のけん引役としての役割が期待されています。

（資料）浦添コースタルリゾート計画検討調査報告書（平成20年度）

○【参考】みなとまちづくりに係る上位計画③

港湾の中長期政策『PORT2030』（平成30年7月　国土交通省港湾局）

4. ブランド価値を生む空間形成

〈施策の内容〉

① 外国人クルーズ旅行客のみならず、我が国国民も楽しむことができる魅力的な空間を創出するため、海からの視点も考慮した「海に開け、船を迎え入れる」美しい景観の形成を推進する。
また、防災とも両立した快適で潤いのある「おもてなし空間」を創造するため、歩行者空間の充実や港湾の持つ静穏な水域や背後都市・自然等との接続性を活かしたパブリックアクセスを整備する。

② 物流・産業機能の沖合展開に対応し、移転後の内港地区等を有効活用するため、多様化・高質化する都市開発と連携し、民間資金も活用した新たな手法による港湾の再開発を促進する。例えば、民間資金を活用したマリーナ開発や長期の水域利用と一体となった臨海部空間の再開発、水上交通の利用による回遊性の強化など港湾空間の特性やメリットを活かし、陸域・水域の一体的な利用を促進する。

③ みなとに賑わいを呼び込み、外国人旅行客・市民の交流の場を提供するため、港湾協力団体等との協働により、それぞれの地域の文化・歴史を活かしたみなとまちづくりやみなとオアシスの活性化を行うとともに、市民が安全・多目的にみなとを利用できるような環境を整備する。

④ インバウンド需要を取り込むため、文化・歴史、ビーチスポーツ体験・景観・自然環境・魚食、さらには工場夜景・水辺のライトアップを活用したナイトタイムエコノミーなど、様々な観光資源を発掘し磨き上げ、魅力的なコンテンツ作りを促進する。
また、快適な旅行を提供することによって、外国人クルーズ旅行客の満足度向上、地域への経済効果の最大化を図る。

4．ブランド価値を生む空間形成

- 民間資金を活用したマリーナ開発や長期の水域利用と一体となった臨海部空間の再開発、水上交通による回遊性の強化
- 様々な観光資源の発掘・磨き上げ、快適な観光の提供等を通じた訪日外国人旅行客の満足度向上、地域への経済効果の最大化

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅲ ＜安全・安心＞(案)

将来像Ⅲ＜安全・安心＞
沖縄の経済・生活の強靭化を支える“みなと”

基本戦略	主要施策	取組内容の例
戦略5 平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保	●防災・減災対策の推進	■地震・津波・高潮等の災害時の緊急物資輸送等の機能を確保する耐震強化岸壁等の整備（新規RORO船岸壁等） ■臨港道路の液状化対策や橋梁の耐震補強等、防波堤の粘り強い化等、港湾施設・海岸保全施設等の防災機能強化 ■防災計画に基づくハザードマップの整備・更新、避難機能を備えた施設の整備、避難訓練の実施 ■関係企業等と連携した港湾BCPに基づく継続的な訓練の実施・見直し ■油流出事故等発生時の官民連携した早期対応体制の確保 ■大規模災害時等の廃棄物処理にも対応できる海面最終処分場の確保
	●物流と人流の分離	■都市部と第2クルーズバースを繋ぐ周辺道路に関するハード・ソフト両面の渋滞対策の検討（再掲） ■新港ふ頭・浦添ふ頭内の臨港道路の再配置 ■新港ふ頭と浦添ふ頭の物流空間の一体的利用のためのふ頭間臨港道路の整備（再掲）
	●離島航路の安定運航の維持	■離島航路に係るふ頭の荷捌き地の拡張 ■離島航路に係るふ頭の物流・人流の動線分離 ■離島航路に係るふ頭の旅客の利便性・快適性の向上 ■離島航路ターミナル等における離島の魅力の発信
	●安全・安心な港湾利用を支える港湾施設の管理・運営	■港湾施設・海岸保全施設等の戦略的な維持管理、ふ頭再編による老朽化施設の廃止・利用転換等のストックマネジメントの推進 ■港湾の水際対策（SOLAS、CIQ、各種感染症、特定外来生物） ■港内の船舶航行状況に応じたポートラジオの導入の検討 ■官民が連携した放置艇・放置車両等の撤去・防止、路上駐車の解消 ■利用船舶の需要増加や大型化等による狭隘化に対応する小型船溜まりの拡張 ■立体駐車場の確保及び適切な利用 ■港湾の開発・運営等の安定的実施に必要な、作業船やタグボート等の係留環境整備 ■物流空間への一般車両等の立入規制
	●領海保全の支援	■領海保全活動の安定的実施に必要な、巡視船の係留環境の確保

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅲ ＜安全・安心＞(案)

【将来像Ⅲ】 沖縄の経済・生活の強靱化を支える“みなと“

★ 戦略5　平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保

●災害時の緊急物資輸送等の機能を確保する耐震強化岸壁等の整備（新規RORO船岸壁等）
●防災計画に基づくハザードマップの整備・更新、避難機能を備えた施設の整備、避難訓練の実施

港を利用した緊急物資輸送の様子（釜石港　H23年3月）

東北地方の港湾機能継続計画（BCP）資料より

R元年4月 総合物流センターが津波緊急一時避難施設協定

出典：那覇市HPより

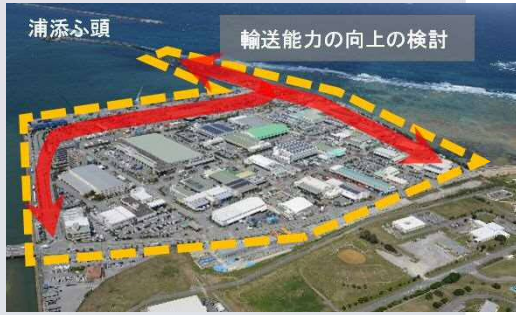
出典：(株)那覇港総合物流センターHPより

●港内の船舶航行状況に応じたポートラジオの導入の検討

●領海保全活動の安定的実施に必要な、巡視船の係留環境の確保

●ふ頭間臨港道路の整備（橋梁等）による港湾車両と一般車両の分離

●新港ふ頭・浦添ふ頭内の臨港道路の再配置による物流と人流の分離



●主要臨港道路における渋滞対策の実施

港湾1号線（泊大橋付近）の渋滞の様子

提供：那覇港湾・空港整備事務所

浦添ふ頭地区

新港ふ頭地区

●危険物取扱施設の沖合移転

牧港補給地区（キャンプキンザー）

那覇港湾施設

那覇ふ頭地区

泊ふ頭地区

●荷捌き地の拡張、旅客の利便性・快適性の向上等、離島航路の安定運航の維持

※泊ふ頭の岸壁背後における物流車両の駐車

●官民が連携した放置艇・放置車両等の撤去・防止、路上駐車の解消
●港湾の開発・運営等の安定的実施に必要な、作業船やタグボート等の係留環境整備

タグボート係留状況（参考：新港ふ頭）

立体駐車場の例（参考：那覇ふ頭）

航空写真：Satellite Image c2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxar company 沖縄総合事務局提供

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅳ ＜持続可能な開発＞（案）

将来像Ⅳ＜持続可能な開発＞ 持続可能な発展を実現する“みなと”		
基本戦略	主要施策	取組内容の例
戦略6 経済活動と豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出	●自然環境の保全、再生、創出	■「自然的環境を保全する区域」の設定、海洋教育等での活用 ■自然環境・景観に配慮した港湾施設の整備 ■港湾工事に伴う、防波堤背後等へのサンゴの移植 ■護岸等の緩傾斜化・親水化、緑地の整備等による良好な環境の創出、みなとへのパブリックアクセスの向上 ■住民参加型のみなとまちの維持管理体制の構築
	●新エネルギーの活用及び港湾活動の脱炭素化の推進（カーボンニュートラルポート（CNP）の形成）	■中城湾港との機能分担・連携による貨物流動の分散、移動距離の最適化 ■「CNP形成計画」の策定と、当該計画に沿った取組推進（陸電供給、荷役機械等のFC化等） ■水素等の新エネルギー利用について、東海岸等の県内エネルギー拠点の取組と連携し、新港ふ頭危険物取扱施設用地等で対応
	●循環型社会の構築を支える港湾環境整備	■那覇港の流通機能を活かした、リサイクルポートである中城湾港との機能分担・有機的連携による再利用商品等の創貨促進 ■中城湾港との連携を強化するための両港間の陸上・海上輸送ネットワークの形成（再掲） ■廃棄物の適正な管理・処理を行うための海面最終処分場の確保
	●港湾における豊かな労働・生活環境の創出	■「みなとまちづくりマスタープラン」の推進（再掲） ■港湾労働者、地域住民等に配慮した緑地、広場、休憩所等の確保 ■上屋再編に合わせた事務所・店舗等を併設した複合施設化の整備検討 ■AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靭化をを図る「沖縄型スマートポート」の形成（再掲）
	●港湾の持続可能な開発・利用・保全を行う体制確保	■民間活力の導入による持続可能な管理運営体制の確保 ■産官学の協力による学生向けの那覇港見学会の開催等による、港湾・海事分野の教育及び人材育成・確保の推進
戦略7 人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用	●研究開発成果や革新技術を試す実証フィールドとしての港湾空間の活用	■物流センターや新規コンテナ・ROROターミナル、マリーナ、港湾空域（水域）等の一部空間を、高専・大学・スタートアップ企業等による技術開発の実証フィールドとして利用提供 ■実証の成果の「沖縄型スマートポート」形成に係る取組への還元 ■クルーズ寄港時以外におけるクルーズターミナル等を活用した、異文化理解・国際理解の促進に係るイベントや、沖縄の歴史・文化の学習の場等への空間提供 ■クルーズ寄港時の学生によるおもてなし活動を通した国際交流及び国際理解教育の推進

○ 基本戦略に基づく主要施策、取組Ⅳ ＜持続可能な開発＞（案）

【将来像Ⅳ】 持続可能な発展を実現する“みなと”

★ 戦略6 経済活動と水辺に親しむ豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出
★ 戦略7 人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用

●港湾労働者、地域住民等に配慮した緑地、広場、休憩所等の確保
●AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靭化を図る「沖縄型スマートポート」の形成

参考：名古屋港富浜緑地

出典：（公財）名古屋港緑地保全協会HPより

参考：港湾の中長期政策「PORT2030」
（H30年7月 国土交通省港湾局）より

●研究開発成果や革新技術を試す実証フィールドとしての港湾空間の活用

●自然環境・景観に配慮した港湾の形状
●「自然的環境を保全する区域」の設定、海洋教育等での活用

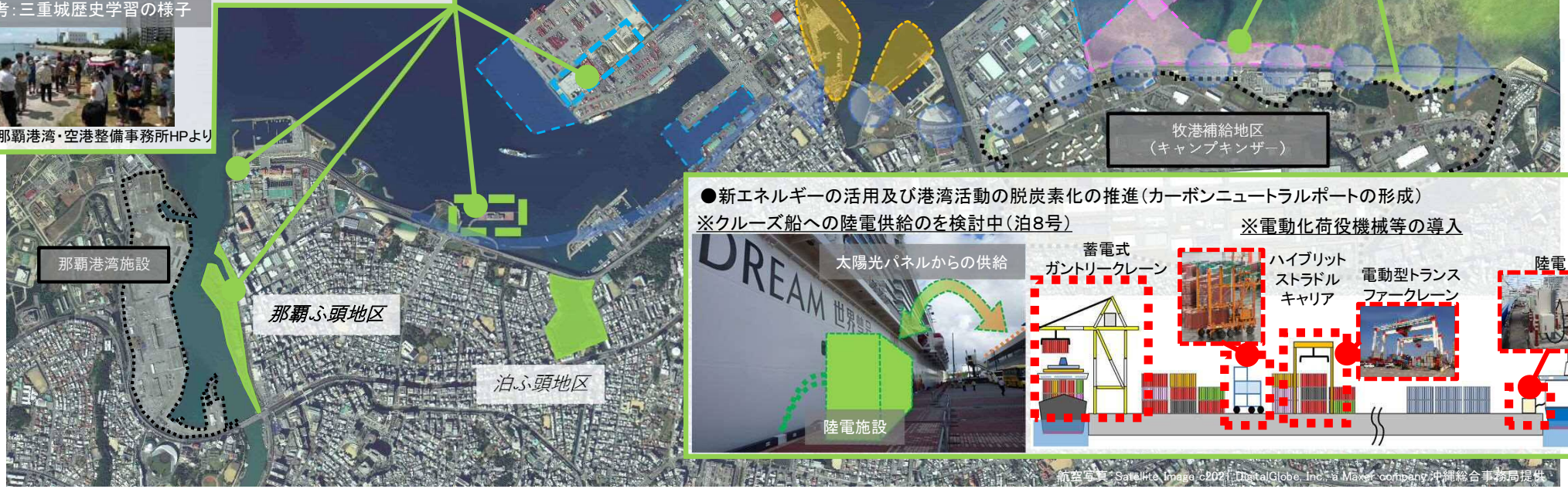
カーミージーでの自然観察会の様子

出典：浦添市HPより

●異文化理解・国際理解の促進に係るイベントや、沖縄の歴史・文化の学習の場等への港湾施設の活用
●産官学の協力による学生向けの那覇港見学会の開催等による、港湾・海事分野の教育及び人材育成・確保の推進

参考：三重城歴史学習の様子

出典：那覇港湾・空港整備事務所HPより



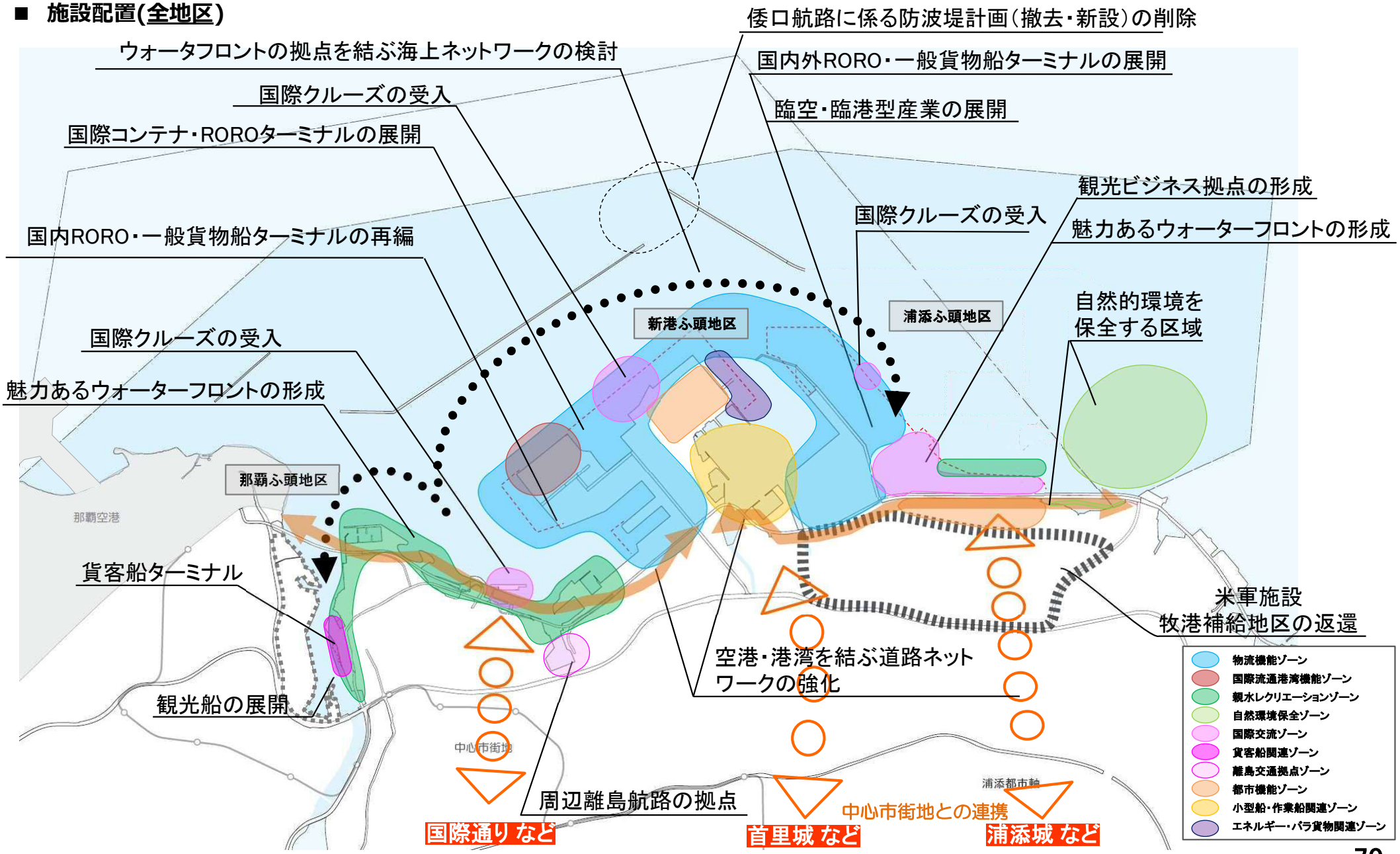
●新エネルギーの活用及び港湾活動の脱炭素化の推進（カーボンニュートラルポートの形成）
※クルーズ船への陸電供給のを検討中（泊8号）

※電動化荷役機械等の導入

航空写真：Satellite Image ©2021 DigitalGlobe, Inc., a Maxar company 沖縄総合事務局提供

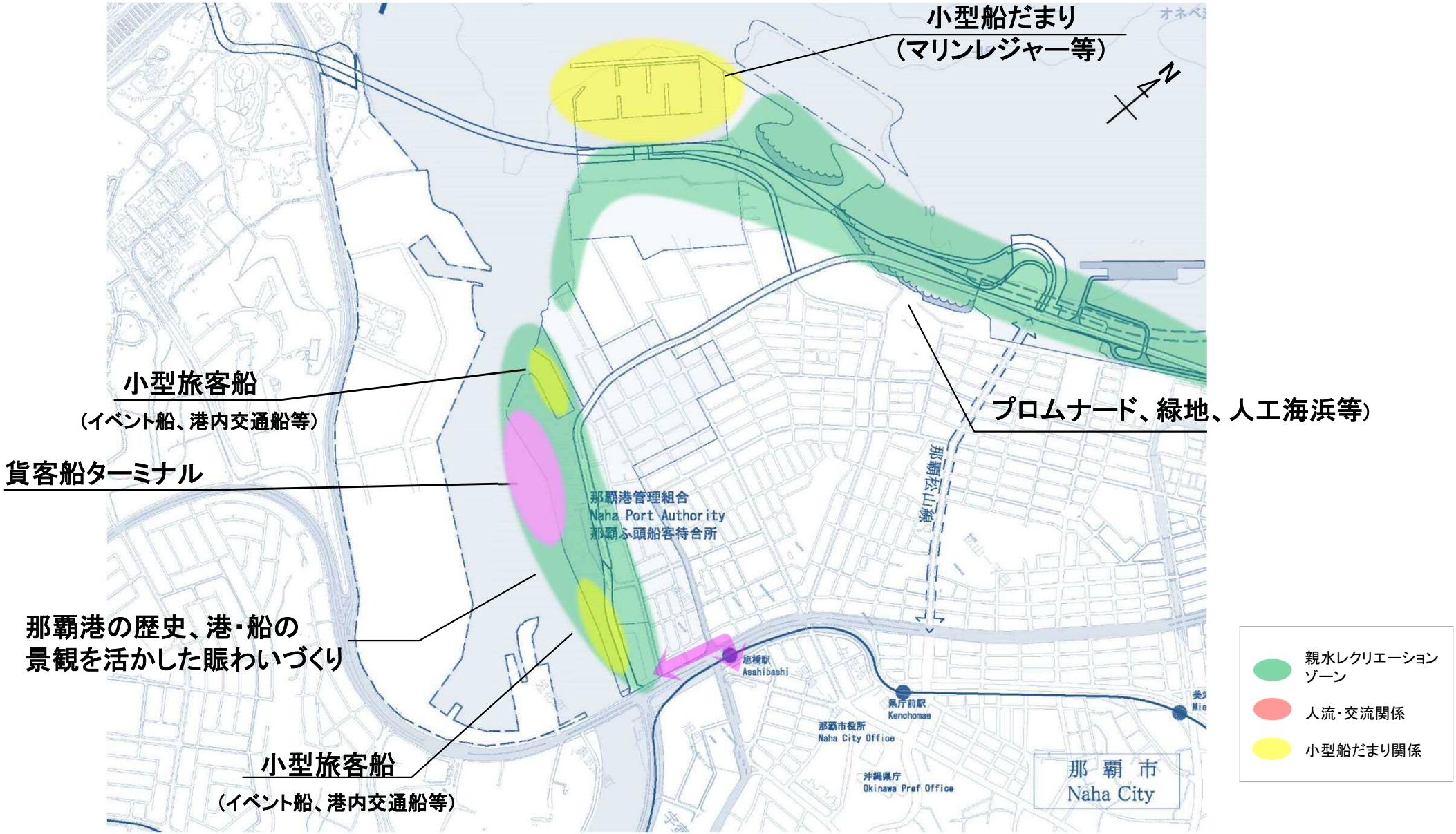
○施設配置イメージ（案）

■ **施設配置(全地区)**



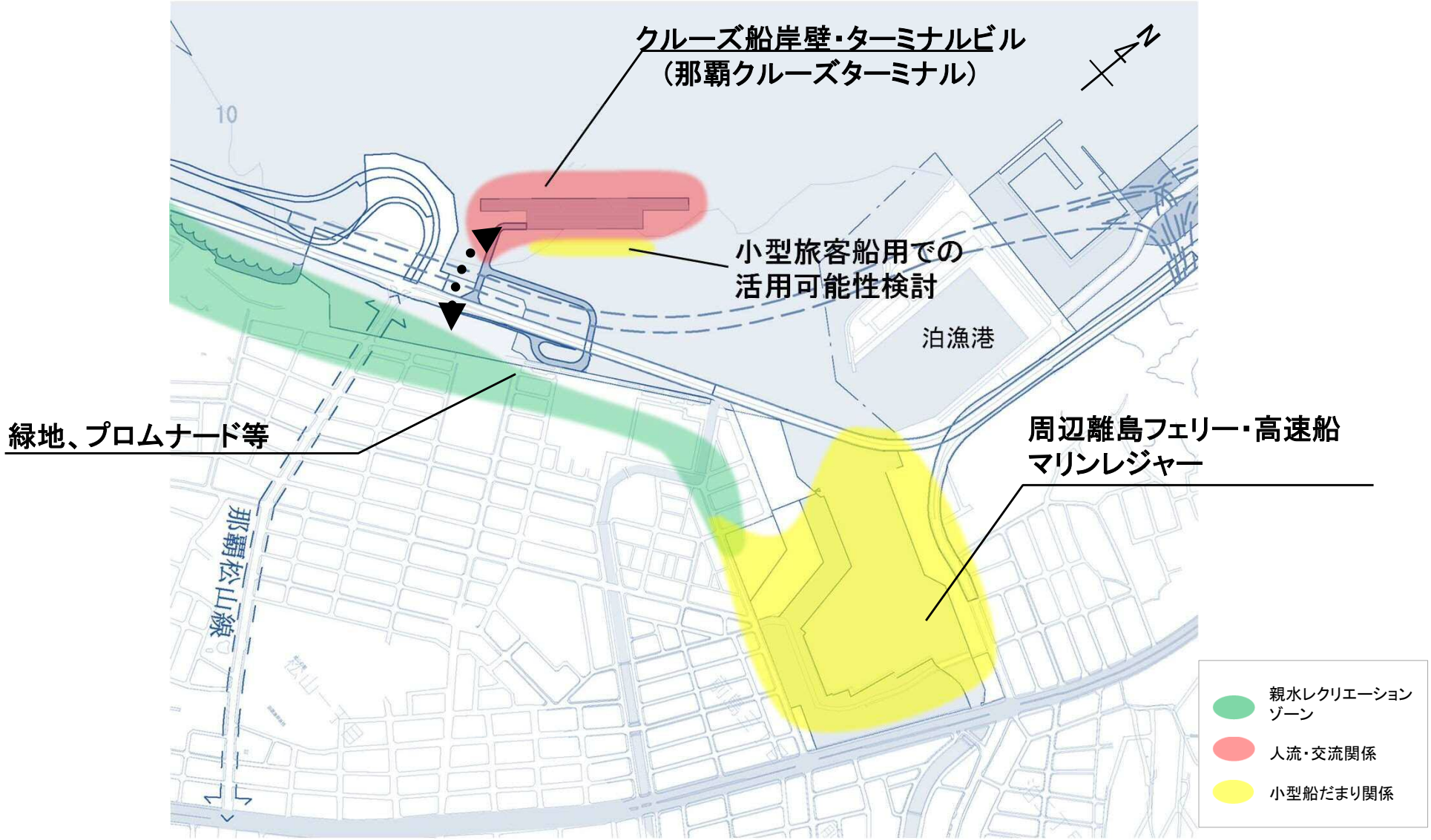
○ 施設配置イメージ（詳細）

■ 施設配置(那覇ふ頭地区)



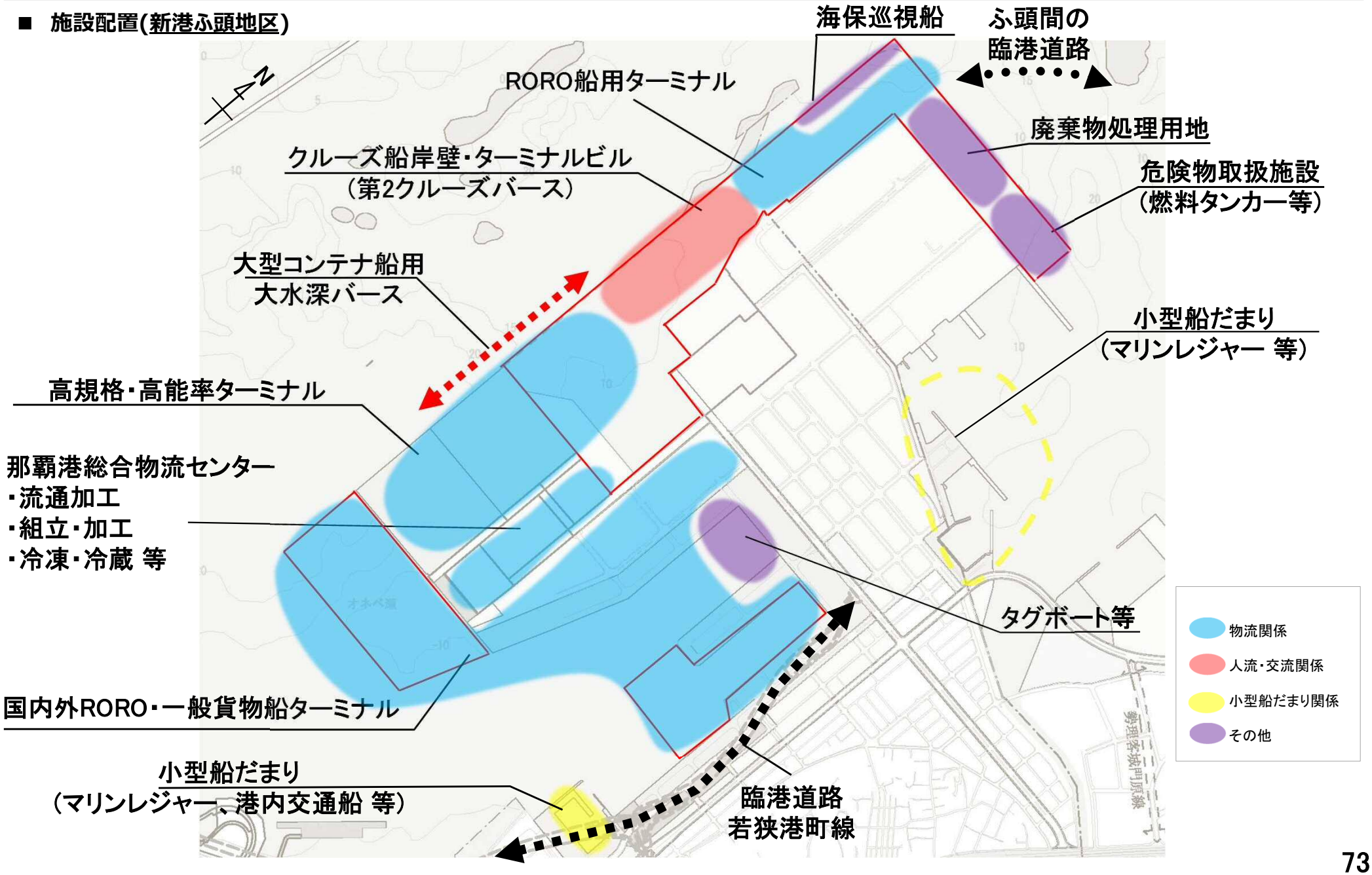
○ 施設配置イメージ（詳細）

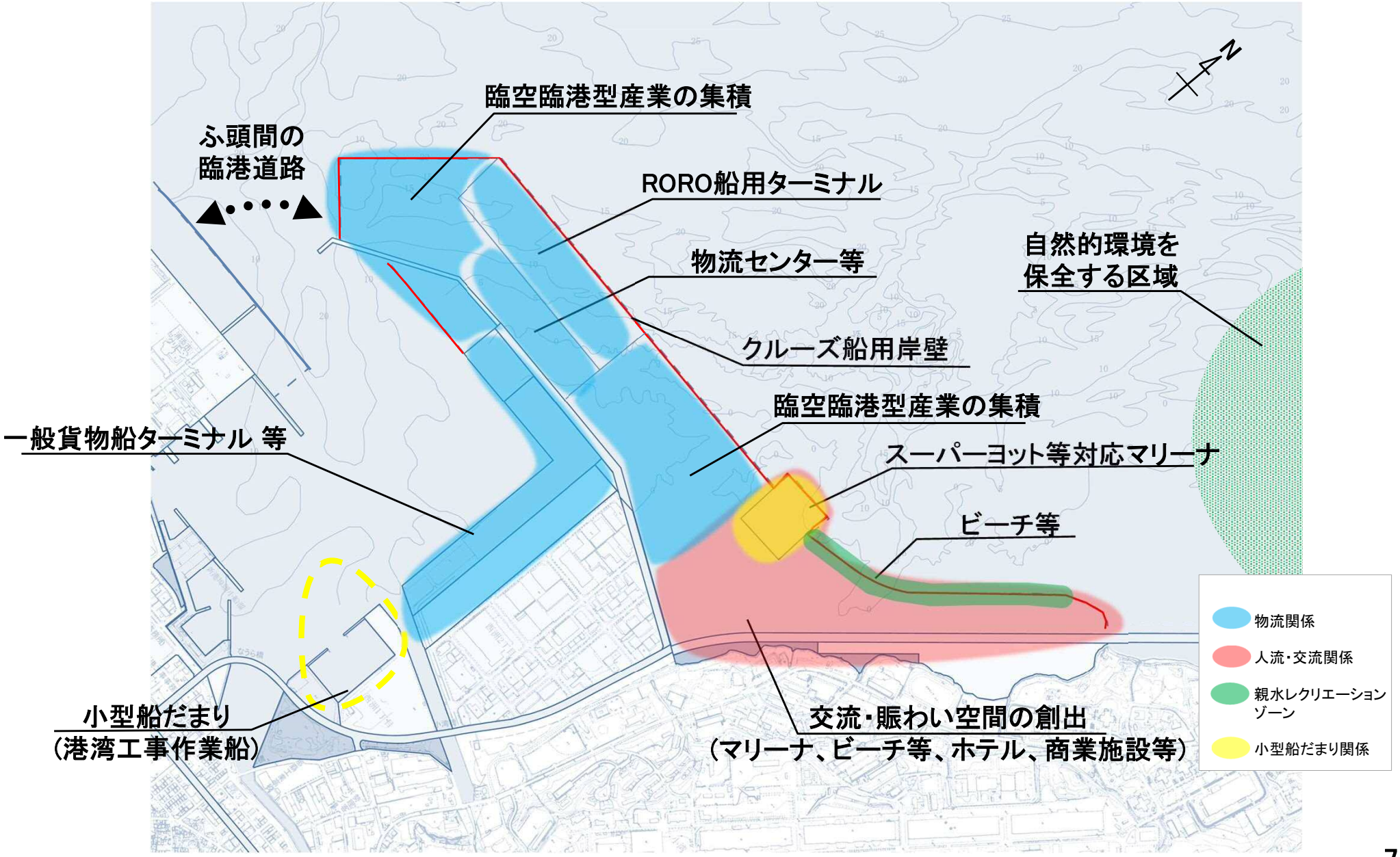
■ 施設配置(泊ふ頭地区)



○ 施設配置イメージ（詳細）

■ 施設配置(新港ふ頭地区)



○ 施設配置イメージ（詳細）

■ 施設配置(浦添ふ頭地区)